

# 「教育サービス面における社会貢献」評価報告書

(平成12年度着手 全学テーマ別評価)

福 岡 教 育 大 学

平成14年3月

大学評価・学位授与機構



## 大学評価・学位授与機構が行う大学評価

### 大学評価・学位授与機構が行う大学評価について

#### 1 評価の目的

大学評価・学位授与機構（以下「機構」）が実施する評価は、大学及び大学共同利用機関（以下「大学等」）が競争的環境の中で個性が輝く機関として一層発展するよう、大学等の教育研究活動等の状況や成果を多面的に評価することにより、その教育研究活動等の改善に役立てるとともに、評価結果を社会に公表することにより、公共的機関としての大学等の諸活動について、広く国民の理解と支持が得られるよう支援・促進していくことを目的としている。

#### 2 評価の区分

機構の実施する評価は、平成 14 年度中の着手までを段階的実施( 試行 )期間としており、今回報告する平成 12 年度着手分については、以下の 3 区分で、記載のテーマ及び分野で実施した。

全学テーマ別評価（「教育サービス面における社会貢献」）

分野別教育評価（「理学系」、「医学系（医学）」）

分野別研究評価（「理学系」、「医学系（医学）」）

#### 3 目的及び目標に即した評価

機構の実施する評価は、大学等の個性や特色が十二分に発揮できるよう、当該大学等の設定した目的及び目標に即して行うことを基本原則としている。そのため、大学等の設置の趣旨、歴史や伝統、人的・物的条件、地理的条件、将来計画などを考慮して、明確かつ具体的な目的及び目標が設定されることを前提とした。

### 全学テーマ別評価「教育サービス面における社会貢献」について

#### 1 評価の対象

本テーマでは、大学等が行っている教育面での社会貢献活動のうち、正規の課程に在籍する学生以外の者に対する教育活動及び学習機会の提供について、全機関的組織で行われている活動及び全機関的な方針の下に学部やその他の部局で行われている活動を対象とした。

対象機関は、設置者（文部科学省）から要請のあった、国立大学（政策研究大学院大学及び短期大学を除く 98 大学）及び大学共同利用機関（総合地球環境学研究所を除く 14 機関）とした。

各大学等における本テーマに関する活動の「とらえ方」、「目的及び目標」及び「具体的な取組の現状」については、「教育サービス面における社会貢献に関する目的及び目標」に掲げている。

#### 2 評価の内容・方法

評価は、大学等の現在の活動状況について、過去 5 年間の状況の分析を通じて、次の 3 項目の項目別評価によ

り実施した。

- 1) 目的及び目標を達成するための取組
- 2) 目的及び目標の達成状況
- 3) 改善のためのシステム

#### 3 評価のプロセス

大学等においては、機構の示す要項に基づき自己評価を行い、自己評価書（根拠となる資料・データを含む。）を機構に提出した。

機構においては、専門委員会の下に、専門委員会委員及び評価員による評価チームを編成し、自己評価書の書面調査及びヒアリングの結果を踏まえて評価を行い、その結果を専門委員会に取りまとめた上、大学評価委員会で評価結果を決定した。

機構は、評価結果に対する意見の申立ての機会を設け、申立てがあった大学等について、大学評価委員会において最終的な評価結果を確定した。

#### 4 本報告書の内容

「対象機関の現況」及び「教育サービス面における社会貢献に関する目的及び目標」は、当該大学等から提出された自己評価書から転載している。

「評価結果」は、評価項目ごとに、特記すべき点を「特に優れた点及び改善点等」として記述している。

また、「貢献（達成又は機能）の状況（水準）」として、以下の 4 種類の「水準を分かりやすく示す記述」を用いている。

- ・十分に貢献（達成又は機能）している。
- ・おおむね貢献（達成又は機能）しているが、改善の余地もある。
- ・ある程度貢献（達成又は機能）しているが、改善の必要がある。
- ・貢献しておらず（達成又は整備が不十分であり）、大幅な改善の必要がある。

なお、これらの水準は、当該大学等の設定した目的及び目標に対するものであり、相対比較することは意味を持たない。

また、総合的評価については、各評価項目を通じた事柄や全体を見たときに指摘できる事柄について評価を行うこととしていたが、この評価に該当する事柄が得られなかったため、総合的評価としての記述は行わないこととした。

「評価結果の概要」は、評価結果を要約して示している。

「意見の申立て及びその対応」は、評価結果に対する意見の申立てがあった大学等について、その内容とそれへの対応を示している。

#### 5 本報告書の公表

本報告書は、大学等及びその設置者に提供するとともに、広く社会に公表している。

## 対象機関の現況

### 1. 機関名及び所在地

福岡教育大学 福岡県宗像市

### 2. 学部・研究科

教育学部 初等教育教員養成課程  
中等教育教員養成課程  
障害児教育教員養成課程  
共生社会教育課程  
環境情報教育課程  
生涯スポーツ芸術課程

教育学研究科修士課程 (12 専攻)

### 3. 学生総数

教育学部 3,020 名

教育学研究科修士課程 253 名

### 4. 教員総数

327 名 (大学 212 名, 附属学校 115 名)

### 5. 教育サービスを行っている附属施設

- ・附属図書館
- ・附属学校 (1 幼稚園, 3 小学校, 3 中学校)
- ・附属教育実践総合センター  
(学部, 附属学校及び関係諸機関の相互協力のもと, 広く教育に関する理論的, 実践的並びに学際的研究及び指導を行う。)
- ・附属体育研究センター  
(体育・スポーツ及び健康・体力の基礎的, 応用的研究を行うとともに, 実践を通して, 学校体育・社会体育の理論的, 実践的研究に役立てる。)
- ・附属障害児治療教育センター  
(障害児に関する基礎的研究, 臨床的研究, 教育方法の開発等を行うとともに, 臨床教育の実践に役立て, あわせて西日本地区大学の研究者との共同研究を深め, 地域社会に貢献する。)

### 6. 沿革

福岡教育大学の前身は明治 6 年の学科取調所である。明治 9 年に福岡師範学校となり, その後, 福岡県師範学校(明治 41.4.1)から第一・第二師範学校(昭和 18.4.1)へ, 更に昭和 24 年国立学校設置法の公布による福岡師範学校から福岡学芸大学(本校小倉・田川・福岡・久留米の 4 分校)を経て, 現在の福岡教育大学(昭和 41.4.1 改称)へと統合発展した。

### 7. 本学の目的

学術の中心として深く専門の学芸を研究教授するとともに, 広く知識技能を開発し, 豊かな教養を与え, もって有為な教育者を養成し, 文化の進展に寄与する。(学則第 1 条)

### 8. 本学の理念・目標

教育に関する総合的教育・研究を行う九州地区の拠点大学として, 学生に豊かな教養と深い専門的知識技能を獲得させることによって, 知的発達と人間的成長を促し, もって有為な教育者を養成するとともに, 地域及びわが国の文化の発展に寄与することを目指す。

これらの理念は, 教育面, 研究面, 社会貢献面において目標を定め, これらの目標を具体化し, 実行することによって達成する。

### 9. 本学の特徴

本学の特徴は, 九州・山口地区における唯一の教育の総合的研究教育機関として, 教員養成を行ってきたところにある。平成 11 年度の改組では, 教員養成の 8 課程を幼児教育と小学校教育を統合した初等教育, 中学校教育と高等学校教育を統合した中等教育及び障害児教育の 3 課程に統合再編した。また, 平成 3 年度に新設の総合文化科学課程を平成 11 年度に生涯教育 3 課程に改組し, 生涯教育分野における指導者の養成を行っている。この改組の目的は, “21 世紀の教育を担うことのできる資質能力をもった教員養成を目指し, 伝統的な学校教員の養成機関から真の意味での「教育の総合的研究教育機関」へと脱皮する” ことにある。12 専攻を設置した大学院においては, 夜間も開講し, 現職教員を積極的に受け入れ, 教員の研鑽と力量の向上にも資している。

## 教育サービス面における社会貢献に関する目的及び目標

### 1. 教育サービス面における社会貢献に関する考え方

福岡教育大学の目的は、学則で「本学は、学術の中心として深く専門の学芸を研究教授するとともに、広く知識技能を開発し、豊かな教養を与え、もつて有為な教育者を養成し、文化の進展に寄与することを目的とする。」と定めている。これを受け、本学の理念・目標について、「福岡教育大学は、教育に関する総合的教育・研究を行う九州地区の拠点大学として、学生に豊かな教養と深い専門的知識技能を獲得させることによって、知的発達と人間的成長を促し、もつて有為な教育者を養成するとともに、地域及びわが国の文化の発展に寄与することを目指す。これらの理念は、教育面、研究面、社会貢献面において目標を定め、これらの目標を具体化し、実行することによって達成する。」と整理しつつある。

すなわち、この理念・目標から必然的に導かれる活動は「教育活動」、「研究活動」、「社会貢献活動」の3つに大別することができる。これらは相互に関連しており、切り離してとらえることは困難であるが、本学における「社会貢献活動」の最も重要な使命は、本学の目的・理念に沿って、社会に役立つ「教育・研究」の成果を上げることであり、もつて有為な教育者・社会人を育成することである。

本学では、長い歴史と伝統の中で培われた教育及び研究に関する知的・人的・物的資源を基盤にして、蓄積された諸成果を積極的に社会に還元することを目指して、これまで、国際化、情報化、生涯学習など社会の要請に応える形で いわば当然ともいえる社会的責任感覚及び教育的信念に基づき 多くの社会貢献活動に取り組んできた。

本学における「教育サービス面における社会貢献活動」の考え方、「教育活動」と「研究活動」で得られた成果 これまでの長い歴史と伝統の中で培ってきた教育に関する知的・人的・物的資源の蓄積 を基盤としながら、その成果を社会に還元し、貢献することである。すなわち、正規課程以外の大学外部の人々に対して、本学の教育に関する知的・人的・物的資源を生かした「学習機会の提供」を大学として行うことである。本来の正規課程の学生・大学院生の教育が大学として第一の責務であることは言うまでもないが、今後も、大学として組織として意識し、努力して 教育サービス面における社会貢献に力を注いでいくことになる。

教育サービス面における社会貢献の具体的な活動

の主なものは次のとおりである。

1. 現職教員教育へ貢献すること。  
現職教員を主対象とする公開講座，教育職員免許法認定講習，学校図書館司書教諭講習，福岡県教育委員会からの長期研修員受け入れ，科目等履修生の受け入れ，公立学校教員の教育論文審査協力，研究発表会・公開授業，小・中学校研修会の指導・助言，地方教員対象教科等研修会，教官研究集会，教員養成機関の指導大学
2. 教育問題・障害児（者）支援に貢献すること。  
外来臨床サービス，学校教育相談事業，啓発活動としての講演会やシンポジウム・公開セミナーなどの開催，ヤングアドバイザー事業，特殊教育諸学校への出張教育相談
3. 国際交流を推進すること。  
教員研修留学生の受け入れ，外国人留学生の受け入れ，ガーナ国理科教員教育セミナー，外国人研究員の受け入れ，附属体育研究センター主催の国際シンポジウム，外国からの研修団などとの交流
4. 地域社会・生涯学習に貢献すること。  
一般市民対象の公開講座，大学教官による高校出前授業，附属図書館や大学・附属学校施設の一般市民への開放，地方自治体との連携，ジュニアサイエンスフェア，ジュニアサマースクール，フレンドシップ事業

### 2. 教育サービス面における社会貢献に関する目的及び目標

#### (1) 目的

1. 現職教員教育へ貢献すること。  
近年，学校の教員の資質・能力及び実践的指導力の向上が大きな教育的・社会的な課題の一つになっている。しかしながら，学校の教員の資質・能力及び実践的指導力の向上については，大学における教員養成段階のみで完結するものではない。むしろ，それは，教育実践の場で 幼児・児童・生徒との触れ合いの経験をする中から，学んでいく側面が多分にあり，それがまた大きな教育的な意味を有している。ところが，現実的には，現職の学校教員は，教育実践の場で大変忙しく，資質・能力及び実践的指導力の向上を目的とした研修を受ける時間的な余裕とその機会が少ないという現状にある。

このような現状に鑑み，本学においては，現職教員の再教育の重要性と必要性を十分に認識し，それを行う機会と場を提供するための具体的な施策を実施する。すな

わち、大学を卒業した後に、さまざまな教育関連の業務・仕事に就いている教員に対して、さらなる学習活動を進めることのできる機会と場を具体的・実際に提供する。

その成果として期待されていることは、学校教員としての資質・能力及び実践的指導力の向上をよりいっそう高め、健やかな人格と豊かな人間性を有する幼児・児童・生徒をはぐくむことのできる教員を育成することにある。

## 2. 教育問題・障害児（者）支援に貢献すること。

昨今、学校教育の場では、不登校やいじめ、暴力行為、学級崩壊、非行、教員の精神的不調など、さまざまな教育病理的問題が発生している。また、このほかにも障害のある子どもたちへの支援や指導も重要な課題である。

本学では、このようなさまざまな問題を抱えている学校関係者や幼児・児童・生徒、保護者、更に障害のある子どもたちに対して、そのような諸問題の解決の手助けをするとともに、その解決のプロセスや進め方を側面から支援・援助する。

その成果として期待されていることは、そのような諸問題を抱えている人々が、自分自身でその問題の解決を図ることを支援したり、あるいは積極的に対応することで、健やかな生き方ができることである。

## 3. 国際交流を推進すること。

外国人の教員に対する教育内容に関する指導や、アジアを主とした留学生たちを対象にして、学習の機会と場を提供する。

その成果として期待されていることは、外国人留学生（教員及び学生）がそれぞれの資質・能力の向上を図り、母国に帰国して、その国の文化的な発展に寄与することができる人材を育成することである。

## 4. 地域社会・生涯学習に貢献すること。

本学の有する知的・人的・物的資源を地域社会の教育的・文化的な発展に寄与するために、本学の構成員と地域社会の人々が密接に連携して、生涯学習についてのさまざまな取組を行う。

その成果として期待されていることは、地域社会の人々の文化的な教養の向上に貢献することのほかに、本学の有する知的・人的・物的資源のさらなる発展にも寄与することができる。

### (2) 目標

#### 1. 現職教員教育へ貢献すること。

##### 1.1 現職教員の資質・能力の向上を図る学習の機会を積極的に提供する。

現職教員の再教育で本学がもっとも積極的に提供するのは、現職教員を主対象とする公開講座の実施である。また、教育職員免許法認定講習を積極的に実施する。

このほかにも、現職教員が学校図書館司書教諭の資格

を取得できるための講習も積極的に実施する。

##### 1.2 学校教員の資質・能力の向上に資するため、現職教員を長期研修員として積極的に受け入れる。

福岡県教育委員会から、附属小・中学校への長期研修員（現職教員）を積極的に受け入れ、自らの実践的な資質・能力の向上のために1年間 附属学校で研鑽を積み、実践的指導力のいっそうの向上を目指す。

#### 2. 教育問題・障害児（者）支援に貢献すること。

##### 2.1 障害児（者）やその保護者又はその関係者のニーズに応えるための臨床サービスの機会を積極的に提供する。

主として障害のある外来者やその保護者及びその関係者に対して、精神発達の遅滞と障害、行動障害、運動障害、聴覚障害、言語障害、視覚障害、重度・重複障害などの発達支援に関する臨床サービスの機会を積極的に提供する。

また、公開講座・講演会・セミナーなどを開催し、現職教員及び地域の一般市民の障害児問題についての啓発活動を実施する。更に、内外からの留学生を受け入れ、その指導に当たる。

##### 2.2 いじめ、不登校などの教育問題への指導・援助を実施する。

いじめ、不登校、学級崩壊、授業崩壊、非行、教員の教科や学級経営などについての問題や悩みなどの相談に応じて、その問題の解決の手助けをする。また、相談にきた教員や子ども、その保護者などに対して心理的援助やカウンセリングを行い、その心理的な支援をする。

##### 2.3 教育の諸課題に関する啓発活動を積極的に展開する。

地域の一般市民の生涯学習への啓発活動として、公開講演会やシンポジウム、公開セミナーなどを開催し、教育病理現象やしつけ、不登校、いじめなどの諸問題などについての問題提起を行い、地域の人々の文化的な発展に寄与する。

#### 3. 国際交流を推進すること。

##### 3.1 教員研修留学生など留学生の資質の向上を図り、有意義な学習の機会を提供する。

教員研修留学生や主としてアジアの諸国からの外国人留学生及び外国人研究員を積極的に受け入れ、その指導に当たる。そして、彼らの教員としての力量の向上やその国の文化的な発展に寄与することができる人材を育成する。

##### 3.2 諸外国の教育の向上に資するため、学習の機会を提供するとともに、現地での指導を実施する。

ガーナ国の理数科教員教育セミナーを実施する。ガーナ国の教員養成カレッジの教員等が、本学で理数科の教科内容やその指導方法に関する研修ができる機会と場を提供する。また、本学の理数科の教官がガーナ国に出向き、その国の教員の資質・能力及び実践的指導力の向上を目指すための現職教員研修の指導を行う。

##### 3.3 学術的な国際交流を推進するための事業を積極的に

実施する。

国際シンポジウムを開催する。更に、訪問団や研修団、視察団などとの交流を実施する。

#### 4. 地域社会・生涯学習に貢献すること。

4.1 一般市民にとって意義のある公開講座をできるだけ多く実施する。

地域の一般市民の文化的発展に貢献するため、わかりやすく生活のために意義のある公開講座を実施する。

4.2 高等学校からの要請に応じて、高等学校への出前授業を積極的に実施する。

高等学校への出前授業を実施することにより、本学で行われている学問研究についての案内をし、生徒たちの「生きる力」をはぐくむための進路指導に役立たせる。

4.3 一般市民にとって、意義のある開放事業を実施する。

生涯学習の時代にあって、一般市民のいろいろなニーズを満足させる要請が高まり、学校教育や社会教育、スポーツ、余暇などの機会と場を提供するため、附属図書館、体育施設や附属学校の施設などの地域への開放を推進する。

4.4 地域との連携・協力を深めるための体制を確立する。

本学と地方自治体との連携・協力をよりいっそう強める。福岡県や宗像市、近隣市町村と連携・協力して諸事業を推進する。そして、大学と地域自治体との連携によって、優秀な人材の開発を目指す。

### 3. 教育サービス面における社会貢献に関する取組の現状

#### 1. 現職教員教育へ貢献すること。

##### 1.1 現職教員を主対象とする公開講座

この公開講座は、学校教育に関するすべての分野の教官が関与し、本学の特色を生かして、現職教員が期待する多様なニーズに応じて実施する。「学校心理学」と「障害児教育」の2講座は、教育職員二種免許状を所有している教員の一種免許状取得を目的として実施する。

##### 1.2 教育職員免許状認定講習

福岡県・福岡市・北九州市教育委員会の主催による講習であり、本学がその指導大学となって実施する。1.1と同様に、教育職員二種免許状所有者を対象として、一種に格上げするために実施する。この講習は、「教員その他特定の職業に従事している者等の再教育」を目的として開設される。

##### 1.3 学校図書館司書教諭講習

学校図書館の司書教諭資格取得を目的として実施されるものであり、本学の教官などがその指導講師となって実施する。

##### 1.4 福岡県教育委員会からの長期研修員の受け入れ

附属小・中学校で県内の現職教員を1年間受け入れ、

教育のあり方や各教科の指導内容、学級経営、児童生徒への指導方法などについての研修を行う。

#### 2. 教育問題・障害児（者）支援に貢献すること。

##### 2.1 外来臨床サービス

附属障害児治療教育センターが、主として障害のある外来者やその保護者又はその関係者に対して、指導・援助等の臨床サービスなどを実施する。

##### 2.2 学校教育相談事業

心理教育相談室の心理教育相談サービス及び附属教育実践総合センターの学校教育相談が主体となって、いじめ、不登校、非行、教科指導や学級経営などの悩みなどの教育病理現象で悩んでいる教員や子ども、その保護者などの心理的援助やカウンセリングを行う。

##### 2.3 啓発活動としての講演会やシンポジウム、公開セミナーなどの開催

保健管理センターや附属の各センターが、さまざまな形で講演会などを開催し、学校教育問題やしつけ、社会問題などについての問題の提起を行い、地域の人々の文化的な発展に寄与することを目的として実施する。

#### 3. 国際交流を推進すること。

##### 3.1 教員研修留学生の受け入れ

文部科学省からの派遣による開発途上国等からの教員研修留学生の受け入れを実施する。教員としての力量向上やその国の文化的な発展に寄与することができるように指導にあたる。

##### 3.2 ガーナ国理数科教員教育セミナー

ガーナ国の小・中学校理数科の授業内容の改善を目標にしたプロジェクトであり、ガーナ国の教員養成カレッジの教員等が本学で目標に沿った内容の研修ができる場を提供するとともに、本学教官がガーナ国に赴いて現職教員研修の指導にあたる。

3.3 これらのほかにも、外国人留学生を受け入れたたり、附属体育研究センター主催の国際シンポジウムや外国からの研修団などとの交流などを実施する。

#### 4. 地域社会・生涯学習に貢献すること。

##### 4.1 公開講座

地域の一般住民を対象にした公開講座を実施する。このほかにも、北九州市教育委員会との共催による公開講座や福岡都市圏17大学連携公開講座を実施する。

##### 4.2 大学教官による高校出前授業

高等学校との教育上の連携・接続を目的とした出前授業を実施する。これによって、大学と高等学校間の密接な連携が図れるとともに、高校生の進路指導にも寄与する。

##### 4.3 附属図書館や大学、附属学校施設の一般市民への開放

附属図書館や大学、附属学校の諸施設を地域の住民に一般開放することによって、地域住民の生涯学習・スポーツ・余暇などのさまざまな活動に役立てる。

##### 4.4 地方自治体との連携

福岡県や宗像市などとの連携・協力を進め、地域社会の教育諸活動や諸事業などに協力することで、地域社会の文化的な発展に寄与する。

## 評価結果

### 1. 目的及び目標を達成するための取組

福岡教育大学においては、「教育サービス面における社会貢献」に関する取組として、教育職員免許法認定講習、学校図書館司書教諭講習、福岡県教育委員会からの長期研修員の受入れ、外来臨床サービス、学校教育相談事業、啓発活動としての講演会やシンポジウム、公開セミナー、ガーナ国理数科教員教育セミナー、公開講座、高校出前授業、附属図書館等施設の開放などが行われている。

ここでは、これらの取組を「目的及び目標を達成するための取組」として評価し、特記すべき点を「特に優れた点及び改善点等」として示し、目的及び目標の達成への貢献の程度を「貢献の状況（水準）」として示している。

#### 特に優れた点及び改善点等

公開講座は、過去5年間において、毎年22～28講座が実施され、その中の7～10講座が現職教員を主な対象としているものとなっており、教育大学としての資源を活用した特色のある取組である。

種々ある現職教員を対象とした講座の中で、「学校心理学」は平成9年度に募集人員60人で開講したものであるが、受講ニーズがとても多かったため、平成11年度から募集人員を100人に増員し対応したが、それでもなお希望する者が多く、抽選によって受講者を絞り込まざるを得ない状況となっており、受講ニーズに応えきれない部分も見られる。また、講座単位や教員有志によって運営されているため、問題点等を個々に処理しているにとどまっている部分もみられ、これらの点は、受講者のニーズを把握するためのシステムや運営方法・内容を検討するシステムの整備という点では改善の必要がある。

福岡県教育委員会の依頼により、6つある附属小・中学校で県内の現職教員を長期研修員として1年間受け入れ、教育のあり方や各教科の指導内容、学級運営、児童生徒への指導方法などについての研修を行っている。指導に当たっては、それぞれの専門教科及び教科外の教員が、基本的には1人の教員が指導教員となり、個別指導を中心として実施するが、必要に応じてはチーム・ティーチングを活用した指導体制で実施したり、全体研修会といった形で全ての教員が指導にあたる体制が整えられており、学校教員の資質・能力の向上に資するための取組として優れている。

附属障害児治療教育センターが行う外来臨床サービスは、障害児の教育・訓練（指導）と保護者及び担任教師などの関係者を対象とした相談を行っている。その内容は精神発達遅滞、行動障害、運動障害、聴覚・言語障害、視覚障害など多種多様であるだけでなく、毎週土曜日にも実施しており、利用者の利便性を考慮している点で優れている。

ガーナ国理数科教員教育セミナーは、ガーナ国の小・中学校理数科の授業内容の改善に関するプロジェクトであり、ガーナ国の教員養成カレッジの教員等が、約2ヶ月間かけて理数科教育の実践方法等について研修を重ねるだけでなく、大学の教員がガーナ国に赴いて直接指導している点は、諸外国の教育の向上に資するための学習機会を提供するための取組として特色がある。

学校教育相談事業として行われている、心理教育相談室が行う「心理教育相談サービス」及び附属教育実践センターの「学校教育相談」は、主として心理臨床部門の教員や教育臨床研究部門の教員がその業務のかなりの部分を担う傾向にあるため、教員に偏りが生じているが、学校教育相談については、福岡教育大学の約3分の1の教員がシンクタンクとして登録し、内容に応じ相談を引き受けており、参加している教員の負担の軽減するための工夫が図られている点で特色がある。

#### 貢献の状況（水準）

取組は目的及び目標の達成におおむね貢献しているが、改善の余地もある。



---

## 2. 目的及び目標の達成状況

---

ここでは、「1. 目的及び目標を達成するための取組」の冒頭に掲げた取組の達成状況を評価し、特記すべき点を「特に優れた点及び改善点等」として示し、目的及び目標の達成状況の程度を「達成の状況（水準）」として示している。

### 特に優れた点及び改善点等

教育職員免許法認定講習は、教職に関する科目や教科に関する科目、特殊教育に関する科目などの講座を設け、平成8年度は31科目（定員2,820人）、平成9年度は33科目（定員2,985人）、平成10年度は33科目（定員3,035人）、平成11年度は33科目（定員3,245人）、平成12年度は33科目（定員3,395人）を開講し、ほぼ定員を充たす受講者を受け入れており、成果を上げている。

公開講座は、受講者が募集人員の半数を満たしていない講座が、平成8年度22講座中6講座、平成9年度25講座中8講座、平成10年度28講座中10講座、平成11年度23講座中11講座、平成12年度23講座中12講座と多く見受けられ、改善の必要がある。

障害児（者）支援活動として行っている附属障害児治療教育センターによる外来臨床サービスは、平成8年度385件、平成9年度411件、平成10年度396件、平成11年度360件、平成12年度426件と、安定した数の相談を受けていることから、地域に定着し、成果を上げている。

高等学校への出前授業は、平成11年度に2つの高等学校において3件実施し、平成12年度には10校において18件実施しており、増加傾向を示しており、成果を上げている。また、授業を受けた生徒の感想文によると、「良い経験をしたと思う。」、「大学の授業はこんなものなのかと想像できてよかった。」、「スケールが大きいと思った。」、「今度は本当に自分で大学の講義を受けたいと思った。」、「非常に楽しく分かりやすく教えてもらえました。」、「模擬授業を聞いて好きになれそうな気がしました。」など好評な記述もあるが、「言っていることが難しかった。」、「初めの方は全然分からなかった。」などの感想も寄せられていることから、改善の余地もある。

### 達成の状況（水準）

目的及び目標がある程度達成されているが、改善の必要がある。

---

## 3. 改善のためのシステム

---

ここでは、当該大学の「教育サービス面における社会貢献」に関する改善に向けた取組を、「改善のためのシステム」として評価し、特記すべき点を「特に優れた点及び改善点等」として示し、システムの機能の程度を「機能の状況（水準）」として示している。

### 特に優れた点及び改善点等

点検評価委員会や生涯学習推進委員会が教育サービスに関する諸活動の改善のための体制となっているが、点検評価委員会は再編・整備されたばかりであり、生涯学習推進委員会については、現在、社会貢献活動について検討する組織としての拡充が検討されていることから、運用については今後の課題である。

したがって、活動の状況や問題点を把握する体制やシステムが整備され、機能しているかという点については改善の余地がある。

また、学外者の意見等を把握するシステムとしては当面運営諮問会議を充てることになり、教育サービスの諸活動についての量的側面の記録・情報収集に加えて、満足度等の質的なデータを把握するなどの直接サービスを楽しむ人々の意見やニーズを把握するシステムは整えられていないため、学外者（社会のニーズ、サービス享受者の意見）を把握する体制やシステムが整備され、機能しているかという点では、改善を要する。

### 機能の状況（水準）

改善のためのシステムがある程度機能しているが、改善の必要がある。

## 評価結果の概要

### 1. 目的及び目標を達成するための取組

#### 特に優れた点及び改善点等

##### 【特に優れた点及び改善点等】

公開講座は、種々の講座を実施し、中でも主に現職教員を対象とする公開講座を開催しており、教育大学としての資源を活用した特色のある取組である。実施体制については、受講者のニーズを把握するためのシステムや運営方法・内容を検討するシステムの整備という点では改善の必要がある。

附属学校における県内の現職教員を長期研修員として受け入れる取組は、基本的には1人の教官が指導教官となり指導を実施するが、場合によっては全ての教官が指導にあたる体制が整えられており、学校教員の資質・能力の向上に資するための取組として優れている。

外来臨床サービスは、相談内容が多様多様であるだけでなく、利用者の利便性を考慮している点で優れている。

ガーナ国理数科教員教育セミナーは、約2ヶ月間かけて理数科教育の実践方法等について研修を重ね、大学の教官がガーナ国に赴いて直接指導を行っている点は、諸外国の教育の向上に資するための学習機会を提供するための取組として特色がある。

学校教育相談事業は、教官の負担に偏りがあるため、シンクタンクを導入し、参加している教官の負担を軽減するための工夫が図られている取組として特色がある。

#### 貢献の状況（水準）

取組は目的及び目標の達成におおむね貢献しているが、改善の余地もある。

### 2. 目的及び目標の達成状況

#### 特に優れた点及び改善点等

教育職員免許法認定講習は、ほぼ定員を充たす受講者を受け入れており、成果を上げている。

公開講座は、受講者が募集人員の半数を満たしていない講座が多く見受けられるため、改善の必要がある。

外来臨床サービスは相談受付件数が安定していること

から、地域に定着しており、成果を上げている。

高等学校への出前授業は、開催件数は増加しており、生徒が書いた感想文によると、好評の記述も見られるが、そうではない感想も寄せられており、改善の余地もある。

#### 達成の状況（水準）

目的及び目標がある程度達成されているが、改善の必要がある。

### 3. 改善のためのシステム

#### 特に優れた点及び改善点等

改善のためのシステムとしては、活動の状況や問題点を把握する体制やシステムが整備され、機能しているかという点については改善の余地がある。また、学外者（社会のニーズ、サービス享受者の意見）を把握する体制やシステムが整備され、機能しているかという点については、改善を要する。

#### 機能の状況（水準）

改善のためのシステムがある程度機能しているが、改善の必要がある。